
環境経営レポート

2022年版



作成日付:

2023年5月31日



信濃化学工業株式会社

〒381-0045

長野県長野市桐原 1-2-12

TEL:026(243)1115 FAX:026(243)1520

URL:<https://www.shinano-kagaku.co.jp>

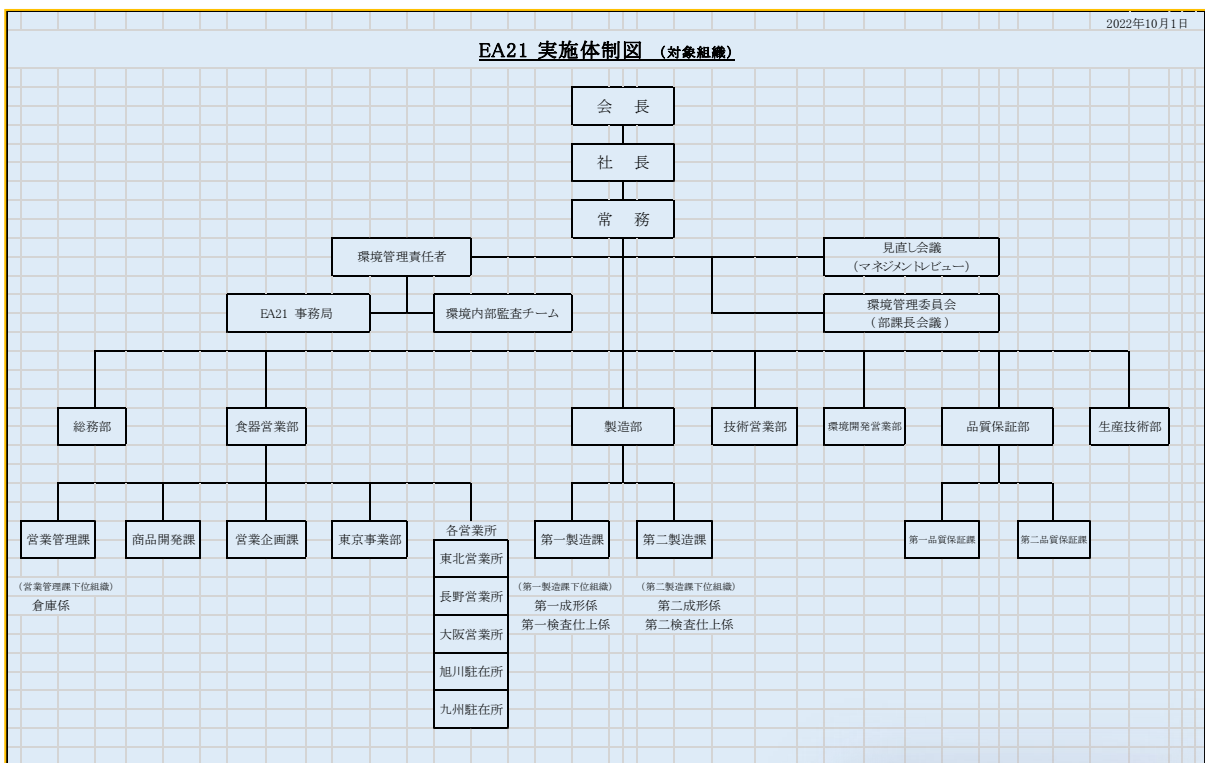
① 組織の概要

名称	信濃化学工業株式会社	
代表者名	代表取締役 小野 大輔	
所在地	本社及び本社工場 : 長野県長野市桐原 1-2-12 第二工場 : 長野県長野市桐原 2-4-1 第三工場 : 長野県長野市桐原 1-2-12 長野営業所 : 長野県長野市桐原 1-2-12 東京営業所 : 東京都板橋区中丸町11-2 ワコーレ要町ビル12階 大阪営業所 : 大阪府大阪市淀川区西中島6-7-3 第6新大阪ビル11階 東北営業所 : (未公開) 旭川駐在所 : (未公開) 九州駐在所 : (未公開)	
環境管理責任者	宮原 秀夫	
担当者連絡先	EA21事務局 : 宮原 秀夫 TEL : 026(243)1115	
事業の概要	プラスチック製品の製造・販売 ・業務用プラスチック製食器の製造販売 ・環境関連商品の製造販売 ・工業部品の受注及び生産	
事業の規模	資本金	4,800万円
	設立	1948年4月
	従業員数	100名
エコアクション取り組み事業年度	4月～3月	

② 対象範囲

登録事業者名 信濃化学工業株式会社

対象事業所 本社及び本社工場・第三工場 (建物床延べ面積 : 3,842.26㎡)
 第二工場 (建物床延べ面積 : 3,727.56㎡)
 長野営業所
 東京営業所
 大阪営業所
 東北営業所
 旭川駐在所
 九州駐在所



実施体制図(対象組織:全組織)

事業の概要

プラスチック製品の製造・販売

業務用プラスチック製食器の製造販売

環境関連商品の製造販売

工業部品の受注及び生産

レポートの対象期間 2022年4月～2023年3月

レポートの発行日 2023年 5月 31日

③ 環境方針

環境方針

信濃化学工業株式会社は、自社ブランド商品としての食器関連商品、並びに森林事業分野を主体とした環境関連商品のそれぞれの企画・開発から製造、及び販売をして参ります。また、工業部品の受注並びに生産をして参ります。

当社のこれらの事業活動が、社会環境や自然環境と密接に関わり合っていることを認識すると共に、「プラスチックのスペシャリスト」として、あらゆるプラスチックに挑戦し技術向上を図りながら、環境の保全に取り組んで参ります。

そして、事業活動のすべての領域で自然環境との調和と地域社会との共生を目指し、以下の行動指針のもとに事業活動を行って参ります。

また、2015年9月の国連サミットに於いて決められた『SDGs(持続可能な開発目標)』にも積極的に関わりを持ち、プラスチック・スマートを代表とする特に自然環境へ配慮した取り組みを、事業活動と一体となって推進して参ります。

1. 技術的に可能な範囲で環境に配慮した商品並びに再利用、再資源化に配慮した商品を開発し、提供します。
2. 当社に関係する環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
3. 環境に配慮した生産資材の調達、並びに資源及びエネルギーの有効利用した、生産活動に努めます。
4. 再利用、再資源化を通じ、廃棄物排出量の削減に努めます。
5. 化学物質使用量の削減に努めると共に、その管理を適切に行います。
6. 定期的に環境経営システムの見直しを行うと共に、環境経営システムの継続的改善を図ります。
7. 環境方針を全社員に周知すると共に、一般にも公開します。

2019年5月1日

信濃化学工業株式会社

代表取締役 小野 大輔

④ 環境目標

環境目標(3ヵ年)一覧表

環境目的	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量の 監視と抑制	① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減 (数値は年間排出量の目標値とし、数値内を目指す)		
	・第一製造 11,800kg-CO2 ・第二製造 3,600kg-CO2	・第一製造 11,500kg-CO2 ・第二製造 3,500kg-CO2	・第一製造 11,400kg-CO2 ・第二製造 3,400kg-CO2
	② 業務改善による時間外労働時間の抑制 ※適切な労働環境を実現し、無駄を排除する ・生産100万円当りの電力消費量 2,450kwh以内		
廃棄物排出量の 監視と抑制	① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減 (数値は年間排出量の目標値とし、数値内を目指す)		
	・第一製造 5,000kg ・第二製造 3,100kg	・第一製造 4,900kg ・第二製造 3,000kg	・第一製造 4,850kg ・第二製造 2,900kg
	② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進 ※ 廃棄物を出さない事業活動の推進 ・売上100万円当りの廃棄物排出量 25.5kg以内		
水使用量の監視	① 定期的確認により監視、測定を行う ・配管、工場設備の漏水等異常の監視		
グリーン購入の推進と実施	① 購入品のグリーン購入の推進 ・環境配慮製品への代替の検討・実現		
化学物質使用量の管理	① 管理された状態の維持継続 ・当社で使用する化学物質について、その種類、使用量、使用方法、使用場所、保管量、保管場所等を経時的に把握し、記録・管理する		
環境配慮に関わる取り組み	① 環境に配慮した新製品開発 ・環境に配慮した新製品開発(生分解性樹脂を採用) 年間1件以上		
	② 環境負荷低減策の検討～実施 ・当社の事業活動に関連して、「環境負荷の低減策」を講じる 負荷低減策の実現1件		
	③ 会社周辺の環境整備 ・会社周辺の環境を整える取り組み		

⑤ 環境活動計画

2022年度 環境活動計画 ～ 目標を達成するための取組み ～

環境目的	環境目標	取組み
二酸化炭素排出量の監視と抑制	① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減 ・第一製造 11,400kg-CO2 ・第二製造 3,400kg-CO2 ② 業務改善による時間外労働時間の抑制 ・生産100万円当りの電力消費量 2,350kwh以内 ③ 社用車における燃料費の抑制 ※エコドライブ推進と営業活動の効率化 ・100km走行当りの燃料消費量 5.4L以内(燃費18.5km/L相当)	【第一製造/第二製造 共通事項】 ・生産不良に関わる「不良率」の削減策の実施 ≪生産不良の削減(不良対策)、QC活動推進 小集団活動推進、生産の効率化策の検討 等≫ ・業務改善提案の実施 ・生産の効率化支援策の実施 ・エコドライブの推進と実施 ≪アイドリングストップ・急加速の防止≫ ・効率の良い営業活動(経路)の実施
廃棄物排出量の監視と抑制	① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減 ・第一製造 4,850kg ・第二製造 2,900kg ② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進 ※ 廃棄物を出さない事業活動の推進 ・売上100万円当りの廃棄物排出量 23.5kg以内	【第一製造/第二製造 共通事項】 ・生産不良に関わる「材料消費量」削減策の実施 ≪不良対策(QC活動・小集団活動)推進 等≫ ・「廃棄物を出さない」事業活動の推進 ・分別の徹底による資源ゴミのリサイクル化 ・「歩留率」の向上策の実施 ・廃棄物抑制策の検討・実現
水使用量の監視	① 定期的確認により監視、測定を行う	・水使用量の把握と配管設備の漏水監視の実施 異常確認時は、速やかな措置の実施
グリーン購入の推進と実施	① 購入品のグリーン購入の推進	・環境配慮製品への代替検討の実施 代替可能なモノは切替えを実施 ・環境含有物質調査、及び衛生評価試験の実施
化学物質使用量の管理	① 管理された状態の維持・継続	・当社で使用する化学物質について、その種類、 使用量、使用方法、使用場所、保管量、保管 場所等を経時的に把握し、記録・管理する
環境配慮に関わる取組み	① 環境に配慮した新製品開発 ・新製品開発(生分解性樹脂を採用) 年間1件以上 ② 環境負荷低減策の検討～実施 ・事業活動関連、「環境負荷低減策」 年間1件 ③ 会社周辺の環境整備	・環境に配慮した製品開発の実施 ・環境負荷の大きい課題の対応策推進 ≪リサイクル材料の活用・商品化≫ ≪対応策の選定と実現検討(実施)≫ ・会社周辺の環境整備の実施 ≪北長野通り商工振興会の事業活動に協力≫

⑥ 環境目標の実績 (1)
2022年度 環境活動実績及び活動状況

環境目標	実績及び活動状況	評価	
		(個)	(全体)
二酸化炭素の排出量の監視と抑制 ① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減 ・第一製造 11,400kg-CO2 ・第二製造 3,400kg-CO2	・年間での実績値 ・第一製造 実績 ※ 13,362kg-CO2 ・第二製造 実績 ※ 3,030kg-CO2 (評) 第一製造では、「不良低減を目指した取り組み」を行いました。成果に繋がらず。	×	△
② 業務改善による時間外労働時間の抑制 ・生産100万円当りの電力消費量 2,350kwh以内	・業務改善活動 ※ 年間改善提案件数 102件 (+7件) ※ 生産100万円当り2,170.9kwh (-6%) (評) 前年より6%向上。効率良いモノづくり実現。	○	◎
③ 社用車における燃料費の抑制 ※エコドライブ推進と営業活動の効率化 ・100km走行当りの燃料消費量 5.4L以内(燃費18.5km/L相当)	・エコドライブの推進と営業活動の効率化 ※燃費実績 16.99km/L (評) 前年実績から後退。車種変更が主要因。		△
廃棄物の排出量の監視と抑制 ① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減 ・第一製造 4,850kg ・第二製造 2,900kg	・年間計画と実績 ・第一製造 実績 ※ 4,471kg ・第二製造 実績 ※ 2,424kg (評) 生産量の減少はあるものの、目標をクリア。	○	◎
② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進 ※ 廃棄物を出さない事業活動の推進 ・売上100万円当りの廃棄物排出量 23.5kg以内	・廃棄物抑制策の実施による廃棄物抑制 ※ 全社で、411.7kg削減に成功 ※ 売上100万円当り 19.5kg (評) 前年より5.8%向上。目標を上回る結果に。	◎	◎
水使用量の監視 ① 定期的確認により監視、測定を行う	・工場内、設備配管とそれ以外の敷地内とに分けて、総務部が監視しました。 ※ 結果、漏水1件発見 (評) 漏水発見されたが、速やかに修理を実施。	○	○
グリーン購入の推進と実施 ① 購入品のグリーン購入の推進	・グリーン購入への適合する代替え検討を行いました。 (費用面を考慮し、実現を目指した) (評) 費用対効果の課題から、代替え実現出来ずしかし、調査・検討は継続的に実施できた。	○	△
化学物質使用量の管理 ① 管理された状態の維持・継続	※化学物質使用部門(第一製造課)が定められた方法により管理された状態が維持されている (評) 適切に管理・維持されている。		○
環境配慮に関わる取り組み ① 環境に配慮した新製品開発 ・新製品開発(生分解性樹脂を採用) 年間1件以上	・新たな製品開発に向けた試験施工等、継続的に実行中 (評) 環境配慮型商品の開発が更に進んでいる。		○
② 環境負荷低減策の検討～実施 ・事業活動関連、「環境負荷低減策」 年間1件 ・全社一斉清掃の実施	・リペレット機が、通年で本格稼働することが出来ました。 ・当社が加入する振興会が推進する環境整備に協力出来た (評) リサイクルの本格稼働に漕ぎ付け成果に。	○	○

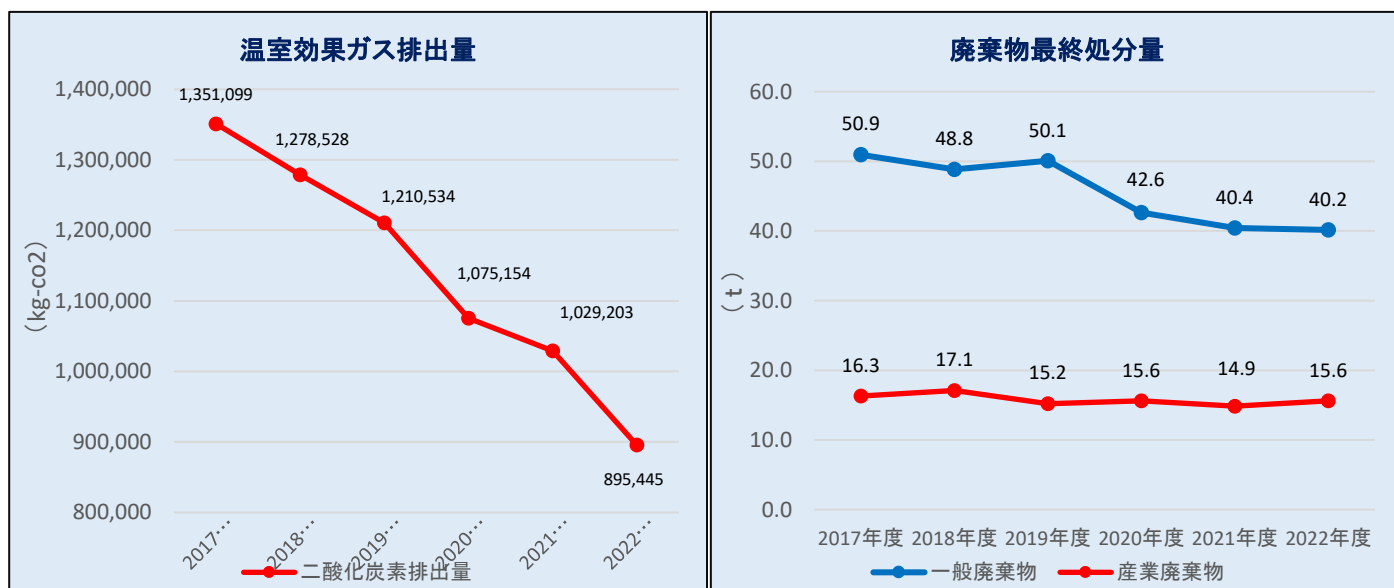
⑥ 環境目標の実績 (2)

環境への負荷の状況(実量)

環境への負荷項目		単位	実績					
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
温室効果ガス排出量	二酸化炭素排出量	kg-CO2	1,278,528	1,210,534	1,075,154	1,029,203	895,445	
		(前年対比%)	94.6	94.7	88.8	95.7	87.0	
廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	リサイクル	t	2.0	2.0	2.0	2.6	2.9
		廃棄処分	t	48.8	50.1	42.6	40.4	40.2
		最終処分量	t	48.8	50.1	42.6	40.4	40.2
	産業廃棄物	リサイクル	t	53.2	44.5	33.6	32.2	33.1
		廃棄処分	t	17.1	15.2	15.6	14.9	15.6
		最終処分量	t	17.1	15.2	15.6	14.9	15.6
総排水量	下水道	m ³	1,478	1,584	1,938	1,464	1,268	
水使用量	上水	m ³	1,612	1,756	2,067	1,567	1,334	
化学物質使用量	ホルマリン	kg	2,315	2,520	1,925	1,600	1,770	
	水酸化カリウム	kg	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	
	メタノール	kg	2,315	2,520	1,925	1,600	1,770	
エネルギー使用量	購入電力	kWh	2,117,450	2,034,424	1,812,783	1,697,229	1,717,796	
	化石燃料	MJ	3,192,379	2,785,605	—	—	—	
物質使用量	資源使用量	t	842.5	740.4	605.7	612.8	618.6	
	循環資源使用量	t	172.9	151.5	81.4	120.6	128.5	
サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質量	t	172.9	151.5	81.4	120.6	128.5	
総製品生産量	製品生産量	t	760.7	666.8	532.8	548.6	561.6	
		(前年対比)	109.7	87.8	79.9	103.0	0.0	
	環境負荷低減に資する製品等	t	40.8	40.1	41.4	43.9	53.3	
	容器包装使用量	t	—	—	—	—	—	

2018年度の電気事業者ごとの調整後排出係数 (株)テプコカスタマーサービス 0.508kg-CO2
 2022年度の電気事業者ごとの調整後排出係数 中部電力ミライズ(株) 2019年度 0.431kg-CO2

環境目標の実績状況の推移

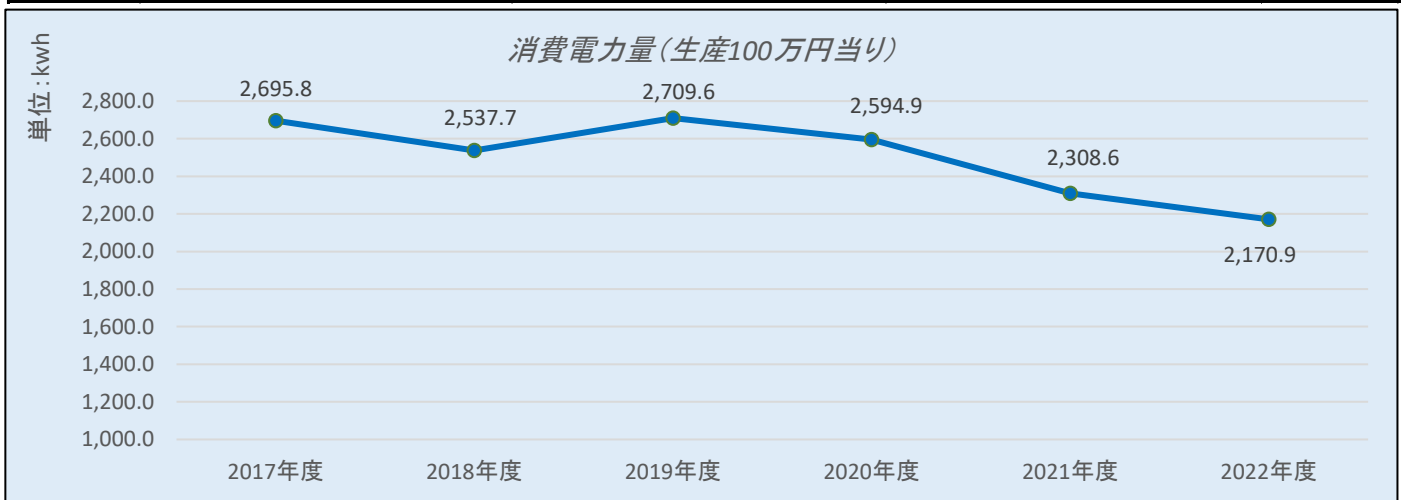


⑥ 環境目標の実績 (2)

環境への負荷の状況(一部、原単位による評価)

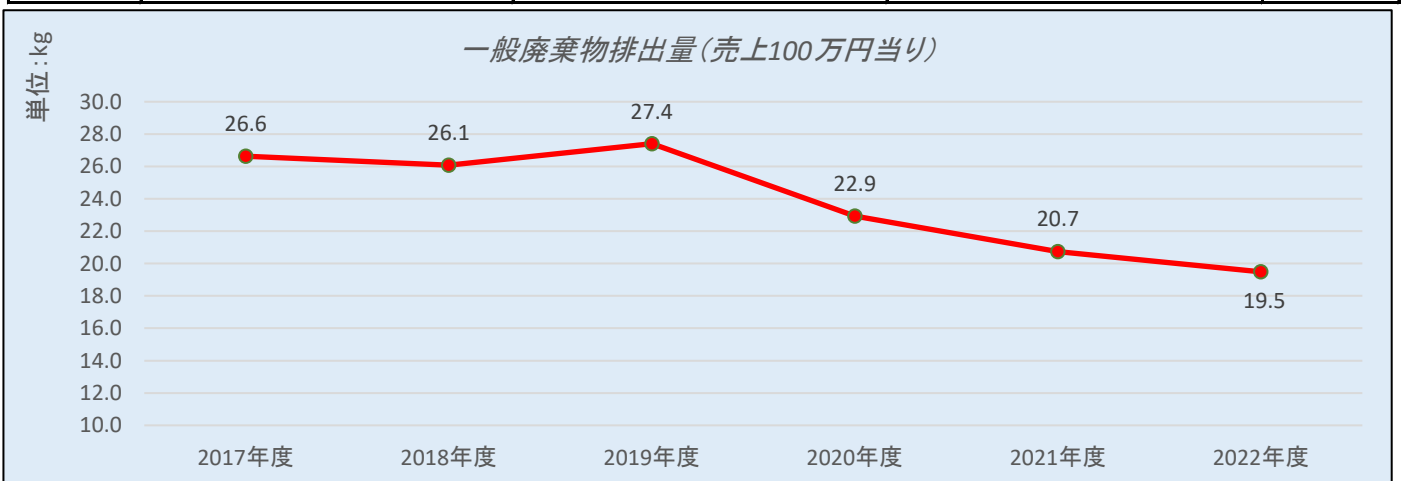
【温室効果ガス排出量に関わる傾向(消費電力)】

	(kwh)	(円)	(kwh)	
	電力消費量	社内生産実績	生産100万円当りの電力消費量	前年比
2017年度	2,201,824	816,774,903	2,695.8	95.49%
2018年度	2,117,450	834,396,303	2,537.7	94.14%
2019年度	2,034,424	750,807,370	2,709.6	106.77%
2020年度	1,812,783	698,650,041	2,594.9	95.77%
2021年度	1,697,229	735,180,910	2,308.6	88.97%
2022年度	1,717,796	791,304,602	2,170.9	94.04%



【廃棄物排出量に関わる傾向(一般廃棄物)】

年度	(kg)	(千円)	(kg)	
	一般廃棄物 (最終処分量)	年間売上高 実績	売上100万円当りの廃棄物排出量	前年比
2017年度	50,880	1,910,180	26.6	105.05%
2018年度	48,830	1,872,268	26.1	97.91%
2019年度	50,070	1,826,802	27.4	105.09%
2020年度	42,640	1,858,964	22.9	83.69%
2021年度	40,440	1,949,197	20.7	90.45%
2022年度	40,150	2,060,220	19.5	93.93%



⑦ 環境活動計画の取組結果とその評価
2022年度 環境活動取組結果とその評価及び次年度の取り組み計画

環境目標	取組結果と評価	課題	次年度の取組み
二酸化炭素排出量の監視と抑制	<ul style="list-style-type: none"> 生産工程に於いては、不良低減を図る。 不良発生に伴う再生産に関わるエネルギー消費の削減を図る。 ※ 結果として、前年と同様に第一製造は「目標未達成」、第二製造は「目標達成」。 全部門にて業務改善を実施して、時間外労働の適正化に努めた。 ※ 改善提案が積極的に行われた 車輛の運転者に注意喚起を図り、効率の良い営業活動が行えた。 ※ 結果として、適切な状態を保つことが出来ました。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産体制再構築（工場改革を含む） QC活動/小集団活動から成果を生み出す（総員での創意工夫） より高効果の業務推進に向けた取り組み 営業活動の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 生産の機械化・省力化を促進。 継続して「不良低減」に取り組む。 業務の効率化は永遠のテーマ。新たな技術、DX等を活用して、引き続き、継続取り組みとする。 「高効率営業活動」を推進する。 必要に応じてリモート営業手法の構築を図る。（要検討事項）
廃棄物排出量の監視と抑制	<ul style="list-style-type: none"> 生産工程に於いては、不良低減を図る。 生産不良に関わる材料消費量の削減から廃棄物排出量の抑制を図る。 ※ 結果として、各製造工程で目標を達成した。主生産が軽量製品であった為。 廃棄物の分別と、廃棄物を出さない事業活動の推進を目指し、全社で活動をしました。 ※ 結果として、廃棄物の抑制が図られ、目標を上回る結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記※と同様 更に廃棄物排出抑制が求められる。（人類全体の課題） 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの取り組みと異なる事項へ積極的にチャレンジする。
水使用量の監視	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、総務部が監視・測定。 ※ 結果として漏水は確認されたが、直ぐに対処し、損害を最小に留められた。 	<ul style="list-style-type: none"> なし 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、管理された状態を維持し管理する。
グリーン購入の推進と実施	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入対象品の検討を実施。 ※ 結果として、対象品への切り替え実績は挙げられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 購入費用が増大する 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入対象品目 再確認。 当事業の一部をグリーン購入法の適用を提案して行く。
化学物質使用量の管理	<ul style="list-style-type: none"> 第一製造課が定められた方法により管理された状態を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> なし 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、管理された 状態を維持する
製品への環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> 大切な地球環境の維持活動として、全社で環境保全活動を推進しました。 ※ 事業活動にて、生分解性樹脂製商品を生産・販売しています。また、市場変化に応じて、新商品の試験施工を行っている。 ※ 事業活動から生じる「環境負荷」の低減策を、他企業との連携を模索した。しかし、連携を生み出すことは出来なかった。 ※ 成形材料の社内循環を模索した。一部、小型機ではあるものの設備導入を実施し、「資源の循環」活動が始動した。 	<ul style="list-style-type: none"> 市場ニーズ 世界的ニーズ 資源の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 新製品開発、用途開発に限らず推進する。 他の事業への展開を検討し、実施する。 自社で対応可能なシステムの導入等を検討、実行への取り組み推進する。 有効な「資源の循環(活用)」に向け確立した社内体制を推進する。

⑧ 環境関連法規等の遵守状況

保護環境	適用法令基準及び関連手順 等		届出・報告・管理が必要な施設、物質など	主な要求事項	遵守状況
地球環境	フロン排出抑制法	自主及び専門知識を有する者による点検	設備の簡易／定期点検	点検記録簿	適法
			充填量、回収量の記録	記録類の保管	
			漏えい量の算出・報告	経済産業省への報告	
			設備廃棄時の回収証明	記録類の保管	
騒音	騒音規制法	環境基本法 長野市公害防止条例施行規則 労働安全衛生法	定点騒音測定 (昼間65デシベル、夜間55デシベル以下) 自主規制	騒音発生施設の配置の改善、その他の技術的事項	適法
環境破壊防止	化管法 (PRTR法)	—	ホルムアルデヒド	使用量の把握、確認	適用済み
	毒物及び劇物取締法	—	ホルマリン 水酸化カリウム	取扱等に関わる管理全般	
作業環境	労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物	ホルムアルデヒド メタノール 水酸化カリウム	名称の表示	適法
		作業環境測定/評価基準 特定化学物質等障害予防規則 有機溶剤中毒予防規則	ホルムアルデヒド メタノール	作業環境測定の結果評価に基づいて、労働者健康を保持する	
廃棄物リサイクル	環境基本法	循環型社会形成推進基本法 自動車リサイクル法 容器包装リサイクル法	使用済み車輛/容器包装 等	リサイクルの推進	適法
	廃掃法	産業廃棄物保管基準 産業廃棄物委託基準	産業廃棄物管理票状況等報告書	委託契約書 産業廃棄物管理票の管理	
危険物	消防法10条他	危険物保管の指定数量以上の許可申請	引火性液体第二石油類	危険物の管理	適法
		危険物施設に関する届出、指定可燃物の指定数量の5倍以上の届出	指定可燃物(合成樹脂類)	危険物の貯蔵量の明確化	
		貯蔵所に於ける「ホルムアルデヒド」貯蔵の届出	ホルマリン水溶液	危険物の貯蔵量の明確化	
		有規則	メタノール		
電波	電波法	—	高周波利用設備の設置の許可申請	設備の機能維持管理	適法
電気	電気事業法	電気関係報告規則	PCB設備の保有届出	届出	適法
製品安全	製品安全規格 (UL規格)	アメリカ保険業者・安全試験所	指定製品に適用	製品の物性保証	対応済み

⑧ 環境関連法規等の遵守状況

保護環境	適用法令	基準及び関連手順	届出・報告・管理が必要な施設、物質など	主な要求事項	遵守状況
地球環境 破壊防止	RoHS指令	EU加盟国施行令	使用禁止物質 (指定材種に適用)	顧客要求時、不使用証明発行	対応済み
	REACH規則	(EU連合)	化学物質の登録～使用制限 (指定材種に適用)	顧客要求時、不使用証明発行	対応済み
	JAMP AIS	(JAMPアーティクルマネジメント 推進協議会)	製品毎の「MSDS」等 (製品含有化学物質情報)	該当物質の含有の有無・含有 量(成形品当りの濃度)	対応済み
環境全般	—	エコアクション21ガイド ライン (2017年版)	—	エコアクション21ガイド ラインへの適合	認証登録
プラスチック	プラスチック 資源循環 促進法	プラスチック資源循環戦略(国・政 府) プラ使用製品設計指針 プラスチックの3R推進	—	プラスチックの有効活用 プラゴミの減量	法令遵守

確認日： 2023年5月23日

遵守状況	評価
法規制通り遵守した	○

[違反・訴訟との有無]

1. 環境関連法規等への違反はありません。
2. 関係機関からの違反等の指摘はありません。
3. 訴訟はありません。
4. 尚、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。



【環境方針・目標、活動計画、環境経営システム等の変更の必要性】

1. 環境方針の変更に関して

当社の経営理念には「社会の繁栄に貢献出来る企業であること」が明記されている。様々な事業分野にてその理念に基づいた事業運営がなされている訳だが、とりわけ日本が抱える大きな課題として、“労働人口の減少”が挙げられる。「プラスチックのスペシャリスト」として素材研究により商品の長寿命化を実現し、また生分解性素材の活用によって廃棄物そのものを減らす事により、市場の求めにお応え出来る商品開発を継続的に行う。

また、世界的な関心事であるSDGsへの取り組みを積極的に推進し、人類の共栄やカーボンニュートラルの実現を目指して行く。

この様な内容も含まれる現在の『環境方針』については、見直しの必要性はないものと、現時点では判断する。但し、方針・目標が掲げただけとならない様に、成果に繋がる活動を更に推進する。

2. 環境目標の変更に関して

環境に関わる当社の「第四次 3ヶ年計画(2022~2024年度 環境目的・目標)」が設定されている。しかしながら、近年の当社の事業運営の一部に僅かではあるものの変化が生じており、また地球温暖化に対する日本国の取り組みが、他国と比較しスピード感が劣るとの評価もされていることから、国内企業に於いても様々な取り組みを早急に仕上げて行くことが求められる。この様な状況下、既に作成済みの「環境目的・目標」の一部を見直す必要性がある。

また各部門の行動計画にも、今まで以上の積極的な行動が求められることから、形式的な取り組みとならないよう、効果が得られる(出せる)取り組みを目指す。

その結果、当社は事業活動を通じて「環境に関する社会的要請」への責任を果たす。

3. 環境経営システムの変更に関して

現時点では、当社の環境経営システムは有効に機能していると判断してシステムの変更の必要性はない。但し、より効果の上がる取組みとスピードが求められる。またシステムの不備が発見された場合は、迅速かつ適切に是正を図り、環境経営システムの改善を実施することとする。

【総括】

コロナ禍、原材料・エネルギーの高騰による環境の変化が著しい中、当社の環境に関する事業活動や、環境経営システムに関わる取り組みにより、限られた資源を有効に活用する取り組みは進捗が図られ、各部門の取り組みにより、良い成果を得る事が出来た。

当社は事業活動を通して、国内の“環境への関心の高まり”が更に増して来ていることも実感しており、引き続き、業務の目的を明らかにし、源流管理に基づく生産及び業務の合理化を実施して行く。

地球温暖化をこれ以上進めないためにも、二酸化炭素排出量の監視・抑制の一部取り組みとして、生産部門では不良対策を、その他の部門に於いては業務改善を推進している。今後は更に社内QC活動や小集団活動、社内コミュニケーションの高度化が求められる。その結果、当社のもので作り力を高めて社会貢献を目指す。

事務部門や間接部門に於いては、IoTやAI等のデジタル技術を活用した業務システムの再構築を模索・検討・推進を目指し、人手に頼る仕事からの脱却を図ることにより、省力化・省人化を目指す。

廃棄物排出量の削減については、「廃棄物を生み出さない事業活動の推進」や「有価物の有効利用」との基本姿勢を念頭に、更に排出抑制を目指す。そのためのヒントとして、昨年施行された「プラスチック資源循環促進法」が挙げられ、社内で検討を重ねて廃棄物排出量の抑制に結び付けたい。

水資源の活用や化学物質の使用量等の管理に関わる取り組みには、現在、課題感はないものの、化学物質の代替材料の模索等を検討して行く。また、グリーン購入に関する取り組みは、コストUPの課題があり、思うように置換えが進まない。今後も情報収集に努め、対応可能なモノを探して行く。

その他、環境負荷低減策でもある当社の“環境資材(林業資材)”の用途開発や、他の分野へ商品投入を目指し、研究・開発に努める。

“カーボンニュートラル”を中途にバイオマス素材の積極的活用を検討する等の、新商品の開発、持続可能な素材や資源循環の取り組み、また廃棄物排出抑制にも効果が期待される資源の有効活用(当社の循環システムの構築による商品のアップサイクル化)を目指し、取引先との適切なパートナーシップの実現等々、積極的に環境活動を行い社会への要請に更に応えられるよう活動して行く。

最後に…当社の存在意義を高めるための取り組みには、惜しみない努力と妥協しない(諦めない)行動を以って、無理・無駄のない効率の良い会社を実現する。

そして持続可能な社会の実現を目指すと共に、当社の業績向上に務めて行く。

2023年5月31日

信濃化学工業株式会社

代表取締役 小野 大輔

全社活動として、会社周辺の清掃等啓蒙活動の様子

2022年8月8日 他



北長野通り沿い



本社敷地内

緊急事態対応訓練の実施

2022年11月25日



消火器の取り扱い

消火布の取り扱い

『環境配慮』に関する事例発表

2022年6月3日



小野社長の事例発表の様子

長野財務事務所の要請により、
当社の『環境配慮』に関する取り
組みの事例発表が行われました。

本社玄関先の花壇を整備

2023年4月22日 撮影



昨年完成した『自作の花壇』。
芝桜もしっかり根を着け、
綺麗な花を咲かせてくれました。

私たちは事業活動を通じてプラスチックの有用性を
更に高め、『持続可能な地球環境の実現』を
目指して、維持・改善に努めて参ります！



 信濃化学工業株式会社

〒381-0045

長野県長野市桐原 1-2-12

TEL:026(243)1115 FAX:026(243)1520

URL:<https://www.shinano-kagaku.co.jp>